

国立病院機構熊本医療センター

No.164



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

平成22年度 第2回開放型病院連絡会開催迫る

平成22年度第2回(通算30回)の国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が、来る2月26日(土曜)午後6時30分より、当センター地域医療研修センターホールで開催されることになりました。紹介症例の呈示、総合討議に続きまして、今回は厚生労働省大臣官房 厚生科学課長 塚原太郎先生の「厚生行政の最近の動向」と題しての特別講演を企画させていただきました。多数のご参加を頂きますようご案内申し上げます。看護部門、事務部門、MSWの方などのご参加も歓迎いたします。

当日、会場にて新規登録医の受付もできます。ご希望の先生は会場受付でお申し付け下さい。

(副院長 河野 文夫)

第30回 開放型病院連絡会のご案内

日 時：平成23年2月26日(土)
午後6時30分～8時30分
場 所：地域医療研修センターホール(当院2F)

－ 内 容 －

1. 紹介症例の呈示(ミニレクチャー)
2. 総合討論
3. 特別講演

「厚生行政の最近の動向」
厚生労働省 大臣官房

厚生科学課長 塚原 太郎 先生

【参加申込み先】

国立病院機構熊本医療センター管理課
電話 096-353-6501 内線2311(高倉・横尾)
住所 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

平成22年度 第2回

熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成22年度第2回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が1月6日(木)午後7時より、当センター会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは清村正弥会長、藤波好文副会長、渡辺猛士専務理事、宮本格尚医療管理理事、高橋禎医療管理委員長が出席いただき、当院より池井院長、河野副院長、片渕地域連携室長、高橋救命救急部長、中島歯科口腔外科医長が出席しました。

池井院長、清村会長からあいさつの後、議事に入りました。まず、当院の歯科紹介率の議題では中島医長から、紹介率はほぼ昨年と同じであることが報告されました。

次いで、当院の歯科救急医療についての議題では、高橋部長より今年はずでに11月までで161件と昨年を上回っており、過去最高の件数であることが示されました。

続いて毎年好評で参加者の多い救急蘇生講習会について、来年度も11月10日(木)に開催されることと、

さらに歯科関係の講演として医歯セミナー3回、口腔外科セミナーが1回開催されることが報告されました。

最後に河野副院長から、平成22年度第2回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が2月26日(土)午後6時30分から、当院研修センターにて開催されることが案内されました。

(歯科口腔外科医長 中島 健)



連絡協議会の様子



「私の決意」

医法社団) 春陽堂

師井 医院

理事長 師井 良知



植木町で整外の弟と外科の私と二人で開業しております師井と申します。

先日何科に進むべきか、本気で迷っている長男に「俺と同じがいいぞ」とアドバイスした。妻が「お父さんはあなたが代わりに診察すれば自分が遊びに行けるしか考えてないんだから、まともに聞いちゃダメよ」と言ったらしい。失礼な！でも何でわかったんだろう？

しかし、妻がそう考える原因の一つはわかっている。今、私が熱中している事のせい……。多分、それは週刊ダイヤモンド誌の日本ゴルフ場ランキン

グベスト100を全てラウンドする事。現在38のコースでプレイをしてきた。39番目の予定もすでに計画済みだ。沖縄から北海道まで名門コースであればある程予約が取れない。メンバー同伴しかプレイ出来ないとなればメンバーの知り合いを見つける事から始める。人数集め、飛行機、ホテルの手配等、数々の労力がある。平日しかプレイできない等もあったが、これも周りの冷たい視線を感じながらなんとかクリアした。昨年5月に行った広野カントリークラブもその一つだ。

これだけ苦労して今迄の中一番すばらしかったと思うのは、1位にランクされている川奈ホテルゴルフコース。太平洋がコースと接し、景色が素晴らしい。惜しくもベスト10には入らなかったが、印象に残っているのは11位の小樽カントリー。

色々書いてきたが私の中での本当の最高は、大きな声で言えないがカルフォルニアのペブルビーチゴルフリンクス。ここを超える所はまだ現れていない。

日本のゴルフ場ベスト100を全て制覇し、その後世界のベスト100を……。私の中の1位を見つける為にまだまだ果てしなく続くのであるが、一つ気がかりは最近、膝と手関節痛が酷くなってきた事である。

ところで最近妻が冷たい。二人でいる時は余り感じなかったが、息子たちが帰ってくると息子に向けた笑顔と私に向けた笑顔は明らかに違う。後10年もすれば息子たちにも嫁が来て母親なんて寂しいものさ。その時、泣きついても知らないぞと思うが「ばかねえ、その時は孫が一番になってるわよ」確かに！

最後にいつも快く患者さんを受け入れて下さる国立病院機構熊本医療センターの先生方・スタッフの方々に感謝しております。

日本輸血・細胞治療学会九州支部会 第57回総会・第78回例会開催される

昨年12月11日(土)、当院の地域医療研修センターにおいて日本輸血・細胞治療学会九州支部会第57回総会・第78回例会が開催されました。本会は多くの偉大なる諸先生方々の情熱と多くの行動・活動が今日の輸血医療発展の礎ともいえる歴史があります。今日においても輸血医療に携わる多くの職種の方々が、希少な症例や先進的な研究報告など数多く発表され、活発な討論が行われ、特に九州の先進的な提言や取組みへの情熱は、輸血医療、移植医療をはじめ様々な臨床医学分野の発展に数々の功績が残されています。

今日の輸血医療の分野に多くの臨床検査技師が“安全な輸血”に取り組む情熱と活動への評価と、今後の輸血医療の場で活躍・寄与することへの期待から臨床検査技師が初の例会長を務めました。

今回は東京、神奈川をはじめ、九州各県から予想を遙かに超える280余名が参加されました。

一般演題(27題)は、赤血球抗体、血小板・移植、



輸血学会の様子

緊急輸血・適正輸血、輸血感染症、臨床輸血、輸血管理、人材育成などのセッションに発表され、また例会長・支部長講演ならびに輸血・細胞治療学会の事業活動や取組む課題、情報に熱い討論、提言が交わされました。

先進的な行動(活動)と結束力の高い九州人の気質は、これからも日本輸血・細胞治療学会の発展に大きく寄与・貢献する活躍を確信するものでありました。

(臨床検査技師長 久田 正直)

第16回 国立病院機構熊本医療センター医学学会開催される

去る1月15日(土)に第16回国立病院機構熊本医療センター医学学会が当院の研修センターホールで開催されました。本学会は院内の多職種の情報交換と学術の向上を目的としており、平成7年から行われています。今回、外部からは、青磁野リハビリテーション病院の金澤知徳先生、慈恵病院蓮田晶一先生に座長をお願いしました。また、田尻クリニックの深田修司先生が症例の発表をされました。

院内からは各部門から症例の発表や教育・研修の取り組み、経営分析など多方面の積極的な発表が行われました。特筆すべきものとしては、リハビリテーション科から人工呼吸など集中治療を行った患者の摂食・嚥下機能改善を目的とした口腔マッサージとその効果



について発表がなされました。この発表は、通常看護部で行っていた口腔ケアに加えて理学療法士による舌や口角の理学的刺激により、嚥下機能の廃用症候群を防ぐことができるというもので、今後病院全体で取り組むべき課題だと思いました。

発表内容も年々向上しており、統計解析を加えた発表が多くみられるようになりました。また、パワーポイントのスライドも分かりやすく、ビジーなものは少なかったような気がします。発表時間もほぼ守られており、良く予行演習を行ったことが窺えました。今後はこれらの発表をさまざまな地方会や全国学会に発表するとともに、論文にまとめ、記録として残すことが肝要であると考えます。

(臨床研究部長 芳賀 克夫)



蓮田先生・田中師長



金澤先生・黒田師長



深田先生の症例発表



意見交換の様子

国際医療協力

平成22年度「血液スクリーニング検査向上(中米地域)」研修コース

国立病院機構熊本医療センターは、国際医療協力基幹施設として、JICA(国際協力機構)と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

平成23年1月17日より2月10日まで平成22年度「血液スクリーニング検査向上(中米地域)」研修コースにエルサルバドルをはじめ3ヶ国8名が、当院の研修棟に宿泊しながら研修を行っています。

(庶務班長 横尾 大輔)

研修は次の3項目を目標に掲げて実施されます。



研修の参加者と

1. 安全な血液供給の世界的戦略と、エイズ、成人T細胞白血病、ウイルス性肝炎、テング熱、マラリアなど血液感染疾患の管理を理解する。
2. 血液スクリーニングと評価方法についての知識と技術を習得する。
3. 血液スクリーニングシステムを理解し、各国の既存システムを改善するための提案をする。

新病院施設紹介〈15〉

地域医療連携室



地域医療連携室スタッフ

先生方には、日頃、多数の患者さまをご紹介頂き大変ありがとうございます。地域医療連携室では、病診連携機能を充実させるため、平成21年4月に地域医療連携室係長（看護師長）、がん看護専門看護師、メディカルソーシャルワーカー（MSW）を各々1名増員しましたが、平成22年11月にMSW1名を増員し計11名とさらに充実した連携室になりました。

入院患者さまが増える中、24時間365日断らない医療を継続するためには、地域医療連携室で行う転院調整が大変重要な役割を担っています。MSWが転院先のない患者さまの状況、必要な処置、障害の程度、介護度などに合わせ、受け入れ可能な医療機関を探し、ご快諾頂いた医院・病院に転院して頂いております。急いで転院する必要があるときは、主治医が直接、転院先を探しますが、開放型病院としてご登録して頂いた時に、あるいは、平成20年12月に施設概要更新のアンケートにご記入して頂いた病院概要の情報から連携医療機関一覧（ファイルメーカーPro）ファイルを作成し、検索できるようにしてあります。また、ご提供頂いた病院紹介のパンフレットも閲覧可能となっております。

平成20年2月8日地域がん診療連携拠点病院の指定に伴い、がん相談支援センターが併置されましたが、熊本県唯一のがん看護専門看護師である安永浩子さんががん相談に携わっております。現在、患者がんサロンの設立を準備中です。

昨年4月よりがん連携クリティカルパスを使った連携には、がん診療連携指導料が算定可能となりました。連携クリティカルパスによるがん連携にもご協力の程、よろしく願いいたします。

インターネットによる地域連携システム（りんどうネット）を昨年5月に開始しました。地域連携クリティカルパスを使用して頂いている医療機関、および、転院を多数お引き受け頂いている医療機関で試用して頂いております。同システムに登録して頂いた医療機関



地域医療連携室内



共同指導受付の様子



相談室

では、同意が得られた患者さまの当院の電子カルテ情報の一部（連携診療録、検査結果、サマリ、病名など）が参照可能となります。連携クリティカルパスや診療情報提供書は、双方向から入力が可能です。

開放型登録医の先生方から紹介頂いた患者さまの共同指導の案内も行っておりますのでお気軽にご相談下さい。共同指導の患者負担分は振り込み手数料のご負担なく当院で代理徴収しております。詳細は、地域医療連携室までお問い合わせ下さい。今後とも、ご支援のほど、よろしくお願い致します。

（地域医療連携室長 片渕 茂）

2011
診療科紹介 (33)
脳神経センター
脳神経外科



主任医長
大塚 忠弘
脳血管障害・頭部外傷
脳腫瘍
日本脳神経外科学会専門医、代議員
日本脳神経外科コンgres
日本頭蓋底外科学会
日本脳神経C I学会
その他



医長
吉里 公夫
脳血管障害・頭部外傷
脳腫瘍
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本脳腫瘍学会
日本小児神経外科学会
その他

診療内容と特色

脳神経外科は平成6年に開設され、平成9年には日本脳神経外科学会専門医教育認定施設となり、研修指導を行っております。当院における救急患者の搬入件数が増加するにつれ、くも膜下出血や高血圧性脳内出血を主とする出血性の脳卒中患者および頭部外傷患者が治療の中心となりました。平成17年度からは日本脳卒中学会専門医認定教育施設に認定され、脳卒中診療に更に力を注いでいきたいと思っております。

平成21年4月には、脳神経外科手術用の最新式顕微鏡（三鷹光器社製MM80）が導入され、また、同年10月の病院新築に伴い専用の手術室も整備されました。顕微鏡手術の快適性・高機能性が担保され、手術成績の向上に繋がるよう益々努力していきたいと思っております。一方、手術症例に限られる昨今、若い医師にとってマイクロサージェリーに対する訓練は大変重要となりました。当科では、微小血管吻合用の手術顕微鏡、機器および内視鏡手術訓練模型を整備しており、また、今後トレーニング環境を更に充実して行く予定です。



医師
中川 隆志
脳血管障害・頭部外傷
脳腫瘍
日本脳神経外科学会
日本脳神経外科コンgres
日本脳卒中学会

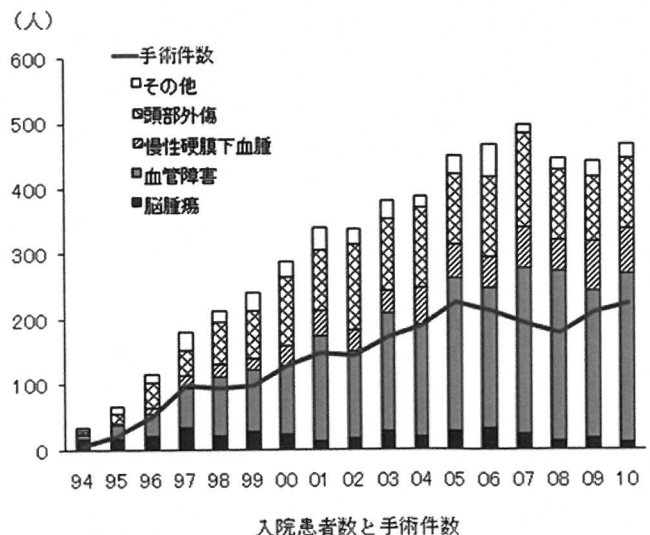
研究実績

- ・スポーツと頭部外傷に関する研究
- ・定位的血腫吸引術と脳浮腫改善に関する研究
- ・無症候性微小脳出血（microbleeds）に関する研究：国立病院機構政策医療ネットワーク循環器疾患共同研究（平成17-19年度、主任）、国立病院機構EBM推進のための大規模臨床研究（平成20-23年度、主任）

診療実績

当科の入院患者数および手術件数は順調に伸びてきました。年間の入院患者数は約480名で頭部外傷（慢性硬膜下血腫を含む）および脳血管障害患者の合計ではほぼ9割近くを占めます。手術件数は200件を超え、スタッフ3名でタフな内容となってきました。

間もなく開始される、県の新たな救急搬送体制に基づき防災ヘリによる重傷患者の緊急搬送が増加するものと予想されます。当科に於きましても、とりわけ手術体制の強化が益々重要となってきます。入院患者の約6割は脳外科的手術／処置を要せず、早期転院をお願いすることもあるかと思いますが、ご協力ご配慮をお願い申し上げます。今後一層手術に力を注ぐ所存です。



ご案内

頭部CTやMRI所見については、電話やメール（画像添付）などご遠慮なくご相談下さい。

最近のトピックス

糖尿病とフットケア



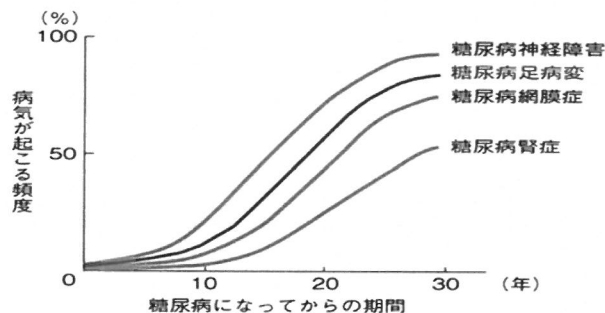
形成外科医長

大島 秀男

形成外科は創傷治療を専門としておりますが、長寿社会の到来、生活習慣病の増加のためか下腿・足部の慢性潰瘍に悩まされる患者様を診る機会が増えています。生じた皮膚潰瘍に漫然と軟膏治療を行っても治癒せず、半年～1年以上にわたって治療に難渋する難治性潰瘍になっていることも稀ではありません。下腿潰瘍の原因はさまざまですが、外傷や感染など外的要因で発症した場合は比較的容易に治癒しますが、その治療経過は基礎疾患の有無により大きく左右されます。すなわち糖尿病、高血圧、リウマチなどの膠原病、下腿静脈瘤や閉塞性動脈硬化症などの血行障害等リスクとなる内的要因のある患者様においては、ほんの引っ掻き傷が原因で難治性潰瘍が発症することもあります。

なかでも糖尿病は巻き爪などの変形、爪白癬、爪周囲炎、足底胼胝、足指の変形といった足病変をきたしやすく、コントロール不良例では小さな傷から皮膚潰瘍になり感染をともなうと壊疽に進行します。糖尿病の合併症としては、微小血管病変に伴う神経障害、網膜症、腎症の三大症状が広く知られていますが、足病

変の発症リスクも健常人に比べて非常に高く、糖尿病で入院加療を要する人の25%は足病変の治療的であるという報告も有ります。足病変をきたしやすいのは、1) 以前足にけがや、病気をしたことがある人、2) 人工透析を受けている人(腎不全)、3) 足に閉塞性動脈硬化症がある人、4) 足に知覚障害がある人で、特に神経障害のある場合はけがをしても気がつかないことがあり、免疫力が低下しているため傷が感染しやすく、重症化しやすいのが特徴です。したがって糖尿病症例においては足病変から予防するための日常的な足の清潔、手入れといったフットケアが非常に重要になります。具体的には、1) 足をよく洗ったうえで乾燥させる。2) 足にあった靴下(縫い目のない物)、靴を選ぶ。3) たこやウオノメは無理せず処置する。4) 爪きりに注意する(深爪はしない、やすりで削る)。5) 暖房器具は離して使用する(ゆたんぼ、あんかは注意)。6) 禁煙する(動脈硬化の予防)。という指導が必要になります。これから冬季にかけては足病変が悪化しやすいため、基礎疾患の治療とともにフットケアについて啓蒙していくことが患者様の足を守るために重要になります。もし治療に難渋する場合は糖尿病内科と並診しますので、お気軽にご相談ください。



院内クリスマスコンサートが開催されました

昨年12月24日のクリスマスイブに、当院では初の試みとしてボランティアによる院内コンサートが開催されました。クリスマスをお家で過ごされている入院患者さんに明るい気持ちを持っていただきたいと企画されました。

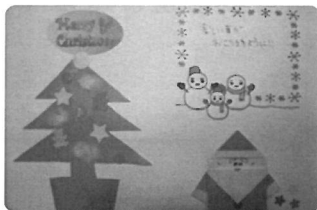
外来フロアの美術絵画がずらりと展示してある通称「アートストリート」に設けられた舞台上、当院の音楽ボランティアに登録されている熊本木管アンサンブルの皆さんにより、「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」「パッヘルベルカノン」「主よ人の望みの喜



熊本木管アンサンブルの皆さん(中央が高橋救命救急センター長)

びよ」「クリスマス曲メドレー」など約40分間にわたり、すばらしいクラシック音楽が奏でられました。

集まった約100名の患者さんは、一緒に口ずさんだり、手拍子をとったり、楽しいひとときを過ごされました。演奏後には、この日に向けて看護師らが作ったクリスマスカードが患者さん一人一人に配られ、「1日も早く元気になりますように」と声をかけて、健康回復を祈念しました。(音楽監修：高橋 毅)



手作りのクリスマスカード



コンサートの様子

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ50回

「緊急手術における術後死亡率の予測式(CORES)の開発とその有用性の検討」

麻酔科 宮崎 直樹



はじめに

予定手術における術後死亡率を予測する式はいくつか開発されていますが、緊急手術における術後死亡率を予測する式ははまだ開発されていません。我々はその予測式を開発し、評価をおこなったので報告します。

研究デザイン

Single center cohort study

対象および方法

対象：

<グループ A>2007年8月19日から2009年3月31日の間に当院受診から24時間以内に緊急手術を行った15才以上の患者445例

<グループ B>2009年4月1日から2010年9月5日までに当院受診から24時間以内に緊急手術を行った15才以上の患者500例

方法：

<グループA>の術前状態に関する35項目と在院死亡の有無を調べ、これらでロジスティック回帰分析を行い、在院死亡率の予測式を開発しました。式は<グループB>においてROC曲線下面積(AUC)で評価しました。

結果

ロジスティック回帰分析の結果：(表1)

表1 ロジスティック回帰分析の結果

	OR	95%CI	Pvalues
JCS ≥ 30	3.08	1.03-9.13	0.043
ASA3	7.84	1.7-36.3	0.008
ASA4	33.2	6.9-160	<0.0001
WBC<2500	6.15	1.3-29.4	0.023
PLTS<150,000, ≥ 300,000	2.38	1.05-5.4	0.037
BUN ≥ 40	3.48	1.31-9.23	0.012

我々は以下の5項目を用いた在院死亡率の予測式を開発し、CORESと名付けました。(式は略)

X1：JCS, X2：ASAリスク分類, X3：白血球数

X4：血小板数, X5：BUN

CORES：Calculation of post-Operative Risk in Emergency Surgery

AUC：グループAのAUCは0.88、とグループBのAUCは0.87であり、CORESは非常に精度が高いといえます。(表2)

ROC curve analysis of CORES

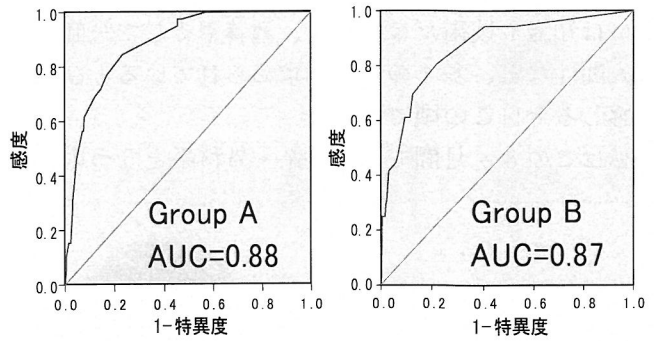


表2

予測死亡率と実際の死亡率との関係：グループA、B共に予測死亡率が上昇すると実際の死亡率が上昇することが示されています。(表3)

予測死亡率と実際の死亡率との関係

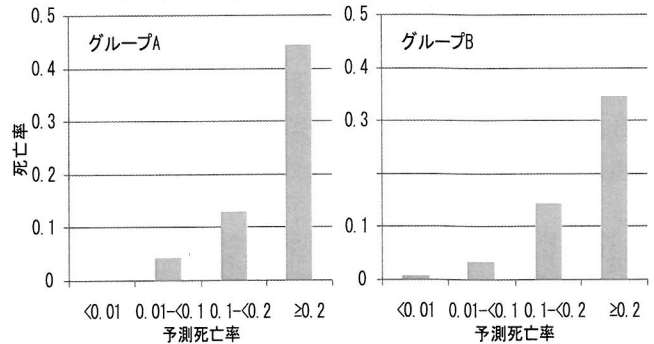


表3

結論

本研究で得られた予測式は精度が高く、治療方針におけるdecision makingや患者へのインフォームドコンセントに有用であり、患者家族と医師間の良好な信頼関係の構築の手助けになると考えられます。

研修医レポート

臨床研修医

1年次 ^{やま}田 ^{さおり}早織



研修医1年目の山田早織と申します。初めは湿布を処方することでさえも名前が分からずにあたふたしていました。あつという間に8ヶ月が過ぎてしまいました。今も課題は山積みで、勉強はもちろんのこと、病んでいる患者さん・そして家族の皆さんに対してどのような言葉をかけたらいいのか難渋しています。医師には知識や技術だけでなく、教養やそして医師自身の人間性など、多くのことが求められているとひしひし感じる今日この頃です。

私はこの8ヶ月間で、内科系・外科系と5つの科を

回らせていただいたのですが、病歴聴取・鑑別診断・治療と多くのことを学びました。カンファレンスでも患者さんの病態と治療方針のプレゼンテーションを求められ、自分の頭でしっかり理解できていないと言葉で説明できないので、その度に勉強になっています。

また救急外来のWalk-inの患者さんの診察では、ただ話すことでさえも緊張してしまうのですが、それに加えて、患者さんが訴える症状から鑑別を挙げて、ルールアウトのために的確な質問をしなければいけないので、いつも頭をフル回転させて気を張りながら診察に当たっています。上級医の先生のようにスムーズに問診でき、患者さんに安心感を与えられたらいいのに、と毎回のように自分の出来なさを痛感しています。

一方、18人の同期にも恵まれ、何か分からないことがあったら気軽に相談でき、それぞれ今回っている科の患者さんについて共有し、そして時に飲んだりと非常に心強い仲間です。

まだまだ未熟者な私ですが、いつも笑顔を忘れず頑張っていこうと思いますので、これからもご指導の程どうぞ宜しくお願い致します。

臨床研修医

1年次 ^{たなか}田中 ^{りな}里奈



研修医1年目の田中里奈と申します。早いもので、初期研修医としての生活も半年以上過ぎたところです。自身の至らなさをしばしば痛感するとともに、患者様やスタッフの皆様から日々沢山のことを学んでいます。

当院の特徴的な点として、救急症例の受け入れが非常に多いことが挙げられます。当院には各診療科がそろっており、複数の病態を合併している症例の管理を多数請け負っています。その診療は容易ではなく、問題点に頭を悩ますことも多いですが、自分なりに解決

策を考えたり、各科の先生方に相談することを繰り返して、医師としての土台作りになっているのではないかと思います。

また、当院の研修プログラムとして、毎週のセミナーを始め、症例検討会、英語教育などが適宜行われており、よりレベルの高い勉強をする機会に恵まれていると思います。慣れない英語での症例発表は難しく感じましたが、将来の学会発表等に向けてモチベーションの向上を図るという点で、大変貴重な機会となりました。

研修生活には大変なことも多いですが、指導医の先生方の優しく、時に厳しい助言、そして同期との支えあいによって、何度も救われた局面がありました。今後も引き続き各科の研修にて、いずれの科に進んでも必要となる基本的診療能力、手技を身につけようと思います。今後ともよろしくお願いたします。

平成24年度—国立病院機構熊本医療センター—臨床研修医募集要項

応募資格：平成24年3月医師免許取得見込みの方、又は、平成16年度以降医師免許取得者で卒後臨床研修を未実施の方

研修期間：平成24年4月1日から2年間

願書締切：平成23年8月8日（月）必着

選考期日：平成23年8月18日（木）、もしくは25日（木）どちらか

問合せ先：国立病院機構熊本医療センター管理課給与係 佐野まで

〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 TEL 096-353-6501(代) 内線5621

詳細はホームページをご覧ください。http://www.nho-kumamoto.jp/index.html

研修のご案内

第9回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成23年2月5日（土）15：00～17：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：田島医院 院長 田島 和周 先生

演題：「脳梗塞／脳出血の病態と治療」

- | | | |
|------------|-----------------------|-------|
| 1. 症候性脳梗塞 | 国立病院機構熊本医療センター神経内科 | 幸崎弥之助 |
| 2. 無症候性脳梗塞 | 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 | 田北 智裕 |
| 3. 症候性脳出血 | 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 | 吉里 公夫 |
| 4. 無症候性脳出血 | 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 | 大塚 忠弘 |

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）FAX 096-352-5025（直通）

第114回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定〕

日時▶平成23年2月17日（木）19：00～20：45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- 「pH6.8まで低下したケトアシドーシスを呈した1型糖尿病の1例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
西東洋一・島川明子・児玉章子・高橋毅・豊永哲至・東輝一朗
- 「食道カンジダ、重症感染症、低アルブミン血症を呈した2型糖尿病ケトアシドーシスの1例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
児玉章子・西東洋一・島川明子・高橋毅・豊永哲至・東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただけますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501（代表）内線5705

第56回 有病者歯科医療講演会

日時▶平成23年2月17日（木）20：00～21：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科医長 中島 健

演題：「ウイルス性肝炎の基礎知識と最近の話題」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋

※熊本市歯科医師会会員の先生・スタッフの方以外は有料となっております。

詳細につきましては下記にお問い合わせ下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科医長 中島 健 TEL 096-353-6501（代表）内線 5720

第145回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座 単位認定〕

日時▶平成23年2月21日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- 胸部レントゲン読影
- 持ち込み症例の検討
- 症例検討「糖尿病性ケトアシドーシスの一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 西東 洋一
- ミニレクチャー「肺高血圧症の病態と治療」
国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾 雄治

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただけますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第109回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成23年2月23日（水）18：30～20：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「めまい・背部痛」

国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕

救急救命士、救急隊員を含めた全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630 096-353-3515（直通）

2011年 研修日程表 2月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

2月	研修センターホール	研修室	その他
1日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~18:00 外科術前術後症例検討会 C 1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
2日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
3日(木)			7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
4日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
5日(土)	15:00~17:30 第9回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 田島医院 院長 田島 和周 「脳梗塞/脳出血の病態と治療」 1. 症候性脳梗塞 国立病院機構熊本医療センター神経内科 幸崎弥之助 2. 無症候性脳梗塞 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕 3. 症候性脳出血 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 吉里 公夫 4. 無症候性脳出血 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 大塚 忠弘		
7日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C 1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
8日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~18:30 外科術前術後症例検討会 C 1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C 2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C 1
9日(水)	18:00~19:30 第67回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
10日(木)		18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
12日(土)	9:00~12:00 楽しく学ぶ研修 「がん看護概論(基礎編)」		
14日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C 1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
15日(火)	18:00~19:30 第55回 くすりの勉強会(公開)		15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~18:00 外科術前術後症例検討会 C 1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
16日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
17日(木)	20:00~21:30 第56回 有病者歯科医療講演会 座長 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科医長 中島 健 「ウィルス性肝炎の基礎知識と最近の話題」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋	19:00~20:45 第114回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定] [日本糖尿病看護士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
18日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「脂肪肝とアルコール性肝障害」	8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
20日(日)	8:30~17:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会<総会・学会>		
21日(月)	19:00~20:30 第145回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定]		8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C 1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
22日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~16:30 血液病懇話会 C 2 15:00~18:00 外科術前術後症例検討会 C 1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
23日(水)	18:30~20:00 第109回 救急症例検討会 「めまい・背部痛」		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C 2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C 1
24日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C 1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C 2
25日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C 1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C 2
26日(土)	14:00~16:00 第227回 滅菌消毒法講座 「紛争地での医療について」 熊本赤十字病院国際医療救援部長 浅井 淳		
28日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C 1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消化器病センター読書室 手術室
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)